

平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。
 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	133102		あり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。									
事務事業名	人権文化創造活動支援事業						担当部局・課	教育委員会人権教育室 解放児童館				
事業内容	体験から学ぶ人権講座として、幼児、小学生を対象とした人権学習講座、成人、中学生を対象とした人権学習講座、成人、中学生を対象とした三味線講座の3講座、人権リーダーを育成する手話講座を1講座開設している。						事業開始(予定)年度				C	
							平成14年度					
							事業終了(予定)年度					
				—								
この事業の上位施策	これから5年間のまちづくりプラン	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現									
		項目	きめ細かな地域福祉の推進									
		施策	人権啓発活動、交流活動の推進									
⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。												
事業の目的	(1) 地区の児童・生徒が学ぶ意欲を高め、部落差別に立ち向かう力を養う。 (2) 地域の伝統文化である三味線、太鼓を継承し地域理解を図る。(3) 手話の交流を通して障害者差別に学ぶ、差別解消のリーダーを育てる。以上3点を中心に人権が尊重され、共に生きる地域づくりをめざす。						予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。)		(款) 教育費 (項) 教育総務費 (目) 解放児童館費 (事項) 人権文化創造活動支援事業費			
事業費等の概算	平成17年度(決算)						平成18年度(予算)					
	事業費	1,171千円	財源内訳				事業費	1,121千円	財源内訳			
			国・県補助金等		32千円				国・県補助金等		32千円	
			市 債		—				市 債		—	
			その他(使用料等)		—				その他(使用料等)		—	
			一般財源(市税等)		1,139千円				一般財源(市税等)		1,089千円	
	投入人員	2.75人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)				投入人員	1.70人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)			
	人件費	23,557千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。				人件費	14,562千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。			
経費合計	24,728千円					経費合計	15,683千円					
活動指標	指標名(単位)	全講座開催回数(回)						計画と実績	年度	H17年度	H18年度	
	意味・算式等	事業目的を達成するために開催回数をもって活動指標とする。							区分			
									計画値	78	78	
								実績値	68			

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。